

平成28年度 第2回常滑市総合教育会議

- 1 日 時 平成28年12月16日(金)  
開会 15時00分 閉会 17時15分
- 2 会 場 常滑市役所5階第8会議室
- 3 出席者 常滑市長 片岡 憲彦  
常滑市教育委員会  
委 員 渡邊 十三香  
委 員 渡辺 慶太郎  
委 員 久田 孝寛  
委 員 鬼頭 明美  
教 育 長 加藤 宣和
- (市長部局関係)
- |     |       |       |
|-----|-------|-------|
| 企画部 | 企画課長  | 齋田 充弘 |
| 企画部 | 企画課主査 | 鯉江 剛資 |
- (事務局関係)
- |          |            |       |
|----------|------------|-------|
| 教育委員会事務局 | 教育部長       | 山崎 巖生 |
| 教育委員会事務局 | 学校教育課長     | 中野 直樹 |
| 教育委員会事務局 | 学校教育課付課長   | 榊原 寛二 |
| 教育委員会事務局 | 学校教育課指導主事  | 村上 正輝 |
| 教育委員会事務局 | 生涯学習スポーツ課長 | 増田 喜政 |
| 教育委員会事務局 | 学校給食共同調理場長 | 岩田 啓二 |
| 福祉部      | こども課長      | 古川 章江 |
| 福祉部      | こども課指導主事   | 赤井 治美 |
| 教育委員会事務局 | 学校教育課副主幹   | 芦萱 珠代 |
| 教育委員会事務局 | 学校教育課主任    | 竹内 裕紀 |
- 4 傍聴人 なし
- 5 協議事項  
(1) 市内小中学校におけるいじめの現状と取り組みについて  
(2) 市内小中学校児童生徒数の見込みについて
- 6 報告事項  
(1) 平成29年度教育予算見込みについて

## 7 会議の経過及び発言

### ○開 会

教育部長：全員お揃いになり、定刻でございますので、ただいまから平成28年度第2回常滑市総合教育会議を開催いたします。

初めに、片岡市長からあいさつをお願いいたします。

### ○片岡市長あいさつ

市長：皆さん、こんにちは。日頃より常滑市の教育行政にご理解ご協力をいただきまして感謝を申し上げます。

本日は、第2回総合教育会議を招集いたしましたところ、師走の忙しい中教育委員の皆さまにお集まりいただき、会議ができますことに対しまして、厚くお礼申し上げます。

さて、本年度第1回目の総合教育会議では「常滑市教育大綱（案）」をご審議いただき、その後策定させていただきました。本日は2回目ということで、今年度最後の総合教育会議は、「市内小中学校におけるいじめの現状と取り組みについて」、「市内小中学校の児童生徒数の見込みについて」を協議事項とさせていただきます。また、「平成29年度教育予算の見込みについて」を報告事項とさせていただきます。今後も、大好きな常滑市が市民の皆様に「常滑一番」と実感していただけるよう“明るく元気なまち”“誇りの持てるまち”の実現のため、政策に取り組んでまいります。特に教育では、「次代を担う人材育成」を目指し、子ども一人ひとりに応じた教育の充実を図ることができるよう委員の皆様のお力添えをいただきたいと思います。簡単ではございますが、よろしくをお願いいたします。

教育部長：ありがとうございました。

では、次第に沿って会議を進めさせていただきます。

常滑市総合教育会議設置要綱第4条に基づき総合教育会議は市長が議事の進行を行うことになっておりますのでよろしくをお願いいたします。

### ○議事事項

#### (1) 市内小中学校におけるいじめの現状と取り組みについて

市長：それでは私が議長を務めさせていただきます。

では本日の協議事項「市内小中学校におけるいじめの現状と取り組み」について事務局から説明をお願いします。

指導主事：資料に基づき説明

市長：ただいま事務局より、「市内小中学校におけるいじめの現状と取り組み」についてのご説明申し上げましたが、何かご意見、ご質問はございますか。

先ほど件数が減っているから良いというわけではなく、目が届いていないのが

原因でないかという話がありました。今年は中学校が昨年より減っているのが心配になりますが、どうでしょうか。

指導主事：そのような心配もありますので、繰り返し子どもへ声かけをする、日頃から子どもと接したりして、子どもの微妙な変化に早く気付くようにして下さいと今まで説明させていただいています。いじめが本当に無くて減っていると思いつつも、見落としがないかという視点をきちっと押さえていただくようにしています。

市長：愛知県は統計上、良い傾向ですよ。

指導主事：はい。平成27年度は過去最高という結果が出ています。これは、細かいこともしっかり見ているということです。

市長：他に意見はありませんか。

教育長：解消率は、全国と比べるとどのような状況ですか。数字が分かれば教えてください。

指導主事：今、数字の分かる資料は手元にありませんが、解消率等につきましては他より若干良い状況であります。しかし、解消できたとしても、安心できないので、そのあとのケアをしっかりして下さいとお話しています。

鬼頭委員：この資料を見て、気になった、心配になった箇所は、先ほどご説明いただき、ほっとしていますが、別紙2の裏面でアンケート調査によって、発見されたいじめが25件あります。自分が受けているという場合もあるし、いじめの現場を見たという情報提供もあると思います。でも、なかなか口には出せない、記名では表に出しづらいという子どもたちの環境があるのではないかと思います。その一方、子どもたちの中で「いじめは、だめだ」という意識があるということも思いたいと同時に、このアンケート調査をもっと子どもたちが発信しやすいように、先生たちが拾いやすいように知恵を出し合って継続していけると良いなと思います。また、先生たちが小学校9件、中学校5件と発見しているということは、子どもたちを日頃から見て下さっているなと感じました。例えば、ある小学校を見ますと2件発生してほぼ解消しているにもかかわらず、次の年には9件となっているのは、日頃から、「もしかしたらこれはいじめの始まりになるのではないか」という意識が子どもたちにも広がっているし、先生方も以前に比べて認識が高くなってきているという数字なのかなと感じました。また、いじめというのは、大人が見えないところで起きているという内容が載っています。その部分をいかにして減らしていくかということが大事なことなのかなということをつくづく感じています。

市長：ありがとうございました。

他にどうでしょうか。

渡辺(慶)委員：当市も、被災地からの児童がいると聞いておりますが、この子たちについてはどうでしょうか。

指導主事：福島県から来ている子どもは3名います。その子たちのいじめの報告はございません。今回の教育相談でも出てきていないと思います。ですが、被災

者を対象としたいじめの報道がされていますので、意識して見ていくことは重要だと思います。

教育長：本日、校長会の情報交換のなかで、福島県からではありませんが、ある市から転入した子どもが、学級の中で上手くいっていないし、いじめと取られてもしかたないようなことがあるということが、教育相談で浮かび上がってきたということを報告で聞いております。現在、学校で手を打っているところがございます。やはり、他市のことだからといって自分の市は大丈夫と思っていることは大変危険かなと感じます。

市長：やはり、転入生はいじめの対象になりやすいのでしょうか。

教育長：日本人の性質かなと思います。日本人は、昔から同質の中に異質の物が入ってくるとどうしても、それを排除する等の傾向があるのではないかと思います。よほど、担任や周りの者が気を付けて見ていかないといけないかなと感じます。

市長：他にないですか。

教育長：アンケートについてですが、以前は、記名入りで行っていましたが、ですが大津の事件以後、記名では発見できないということになり、現在は、無記名で行っていると思います。いじめの発見のきっかけが、中学生のアンケート調査により発見できた件数は、全体からは25件が良いのですが、学校ごとに見るとA中学校は14件中14件がアンケートで発見されている。D中学校も9件中9件アンケートで発見されている。ところが、B中学校は、7件中2件はアンケートでは発見されていない。C中学校では、8件中アンケートでは0件。このように、学校間の格差がありますので、それぞれの学校のやり方、アンケートの方法等が本当に適切なのか考えて見ておかないと見落とししてしまうのかもしれないかなと思います。

市長：アンケートの内容はそれぞれの学校にまかせられているのでしょうか。

指導主事：統一されています。

市長：他にありませんか。

渡邊(+)委員：A中学校は生徒数が少ないのですが、アンケート調査では14件上がってきているのは、子どもたちが言いやすい学校であって、それを受けとめる先生たちがいて、伝えたらなんとかしてくれるという子どもたちの思いがあるのかなと思います。一方、生徒数が多い学校で、アンケート調査では件数の少ない学校は、もしかしたら書きたくても書けない子どももいるのかなとそういうところが問題かなと思いました。また、中学生になると小学生のように、自分から訴えるということはなかなか難しいところもあり、そのような子どもたちが自分の思いをアンケートに書けるようになるためには、アンケートの仕方に少し工夫が必要かなと思いました。良かったところは、報告様式の変更について、従来は認知件数と解消率だけで市教育委員会へ報告されていたのが、学年及びそのいじめの内容についても報告するようになったことは、とても良い取組であると思います。このように、できるだけ具体的にどのような出来事

があったのかが、市教育委員会までわかるような状況に市全体がなることが良いことだと思いますし、どんな些細なことでも、市教育委員会に相談できる関係になる組織づくりを考えていけないのかなと思います。

また、記載されている数字だけでは、良いのか悪いのかが判断ができないので、誰が見ても1年後、2年後良い方向になっていることがわかるような工夫も必要かなと思いました。

市長：他にありませんか。

久田委員：すごく資料が良くまとめられていると思います。いじめはいじめを予防することが一番大事なことだと思います。そのためには、先ほど十三香委員さんのお話にもありましたし、村上指導主事からの説明の中にもありましたように、児童、生徒たちと何でも言い合えるような関係、お互いの信頼関係が一番大事だと思います。また、学校では、先生同士が何でも言い合える、校長先生、教務主任などにどんなことでも言えるという雰囲気きちんとしていければすごく予防になるのではないかなと思います。先生と子どもの関係においても、連絡、報告がどんな小さいことでも言える雰囲気、保護者からも子どもの行動の変化などを学校に言える又は、市教育委員会に言えるそういう雰囲気づくりが、市の役割として大事なのかなと思います。

市長：他にありませんか。

いじめをする側は、意識していないと思います。しかし、いじめを受ける側にとっては辛いことです。やはり、いじめをいかに早く見つけ、相談体制ができ、早く対処するということが必要かなと思っています。ですから、市教育委員会、各学校からすぐ上がってくるような風通しの良い関係を作っていただければと思っています。よろしくお願ひしたいと思っています。

## (2) 市内小中学校児童生徒数の見込みについて

市長：それでは、次に「市内小中学校児童生徒数の見込み」について事務局から説明をお願いします。

学校教育課長：資料に基づき説明。

市長：ただいま「市内小中学校児童生徒数の見込みについて」の資料が提出され、かつ、今後の学校の適正規模についてのご意見をいただきたいということでもあります。このことについて何かご意見はございませんか。

この資料の平成35年4月を見ましても、南知多町や新城市のような規模には、まだ至らないということですよ。

学校教育課長：はい。そのとおりです。

市長：現在、各校の「大規模修繕」を行っているのですが、児童、生徒が減っていく学校にそれだけのお金をかけてまでやるべきなのかという疑問もあります。

実は、文部科学省の方からは長寿命化としてやったらどうかと言われていま

した。長寿命化とは、主だった主要部分だけを残してあと壁からなにもかも壊して補強して新築より低価格で行うことであれば、国から補助金を付けるということでもあります。そうすると、現在の学校規模で良いのかと悩みまして、結果お断りしました。

鬼頭委員：自分も青海地区なので、青海のことを話させていただきますと、それぞれの学校にも特徴があり、地域性もあり、1クラスしかないクラスがこれ以上減っていくと一緒になるのかなど。その場合、どんなことがきっかけで市民や行政が動くのかなど考えてしまいます。1クラスになってもまだやっているのであるという思いがあれば、このまま地域性を生かした学校づくりであってほしいなとは思いますが。

市長：南知多町の場合は、50名程度で初めて統廃合したということですが、まだ常滑市は至っていません。複式学級は何名でしたか。

学校教育課長：複式学級につきましては、小学校は1年生と2年生合わせて7人、3年生・4年生・5年生・6年生はそれぞれ14人。中学校は、1学年8人でございます。

市長：複式学級までして、学校を存続することはないと思いますが。

教育長や久田委員さんも「地域の学校」ということをよく言われます。この前、新聞の記事で瀬戸市が今まで自由選択みたいな形で隣接する学校に自分が希望すれば通学できていたのを児童生徒が減少する学校はどんどん減ってしまうことを理由に元に戻すということで、選択制は無くなったということが掲載されていました。やはり、「地域の学校」ということは、必要なことだと思えます。

教育長：子どもの数が減少し、統廃合でまとめることにより子どもの数を増やしていく。それは横の統合であります。これからは、縦の統合である小中一貫校も視野に入れていかないと常滑市の場合はなかなか難しいのかなと思えます。小中一貫校により子どもの数を増やして、そして、その地域をもう少し守っていくことができるのかなと思えます。そのためには、建屋をひとつにまとめてあげるとかが必要になってくるのではないかなと思えます。

鬼頭委員：おなじ敷地にとということですか。

教育長：おなじ敷地、又は隣にとという形です。統廃合で何とかやれているのは、新しい学校を作って、こういう学校を作るからという理由がわかると、住民からの動きもこの際だからといって、反対していても最後に賛成をしていただける。

市長：田原市が「津波」ということで、統合しようとしています。

教育長：やはり、そういうことがないとなかなか難しいです。

常滑市の場合は、小鈴谷小学校のように伝統校があります。これをどこかに移すということは難しい状況にあります。

久田委員：少ない学校も難しいですが、反対に増加している学校についても同じかなと思えます。常滑東小学校が平成35年4月に39学級という予想です。現在は25学級となっています。

学校教育課長：新設予定の軽量鉄骨校舎が14学級見込んでおりますので、合わせると39学級になります。最新の状況を言いますと現校舎の部分においても増えていますので、更に普通教室に移すところはないかということで、いまは2学級までならできるとはということで考えています。

久田委員：お話からは何とかかなりそうかなと思います。でも、現時点での予想でなんとかかなと言っている、もしかしたら人口が増えて教室がなくなってしまうことがあるかもしれないということを今のうちから予測して、その時になってあわてないためにもそうなった場合にどうするかという対策みたいなものを早いうちに設計図を作っていないといけないかなと思います。同じことの繰り返しになることを心配しています。

学校教育課長：言われたことはそのとおりだと思います。児童生徒数の増減を把握しながら考えていかなければならない課題だと思っております。

市長：同じ常滑市内で人数がどんどん増える学校、反対にどんどん減る学校があり極端な差があります。現在、飛香台が目標の70～80パーセントの入居率というか販売数になっています。まだ、100パーセントになっていませんので、これから増える可能性は高いです。新しい人たちが入ることによって子どもたちも増えてきますので、平成35年4月以降何年が最大のピークか考えていかなければいけないかなと思います。

渡辺(慶)委員：市長のご指摘のとおりで、私自身の認識も南北の過疎の統廃合の問題よりも南北の地区と中央地区のアンバランスが気になる要素かなと思います。おなじ常滑市内の児童であっても教育環境が相当違う状況におかれることとなりますので、200分の1人なのか100分の1人なのかその子たちが平等な教育を受けられるのかという問題認識もあるのではないかと気がします。教育委員会だけの議論ではなく地域住民に広く広報して問題を認識してもらうこととか、地域の側から何らかの提言を引き出していくという姿勢があるのではないかと気がします。常滑西小学校、常滑東小学校の問題にしても、どうしても市教育委員会から上からの押し付けみたいに地域が受け取るとなかなか話をまとめるのが大変な面があると思いますので、問題が見えているうちに、将来こうなるということをしてできるだけ前の段階から地域に情報提供し、地域での議論を喚起していくことをしてはどうかと思います。

鬼頭委員：私はこの表の数字を見たときに、私たちにどのような意見を聞きたいのかなと思いました。何を私たちから言えるのかなとも思いましたので、この表の数字を一般の人へ広報する場合は、市民側から、学校側から色々な意見が出た後で、行政と考えがまとまった際に出さないとこの数字を見て何が目的なのかなと疑問を持たれるのではないかなと思います。

市長：渡辺(慶)委員さんのお話にもありましたが、早くから分かっているのであれば、地域の意見を聞きながら進めていくことが必要かなと思います。ただ、今この問題をどのようにして地域に投げかけるかとなると難しい部分も出てくるでしょうし、常滑市の全体の意見をどのようにまとめていくかということが一番

難しい部分だと思います。

渡辺(慶)委員：常滑東小学校、常滑西小学校の校区変更の話でも、結局最後は皆さん非常に物分りのよい形で納得していただけたのではないかなという気はしています。

市長：学校の適正規模についての議論は多くの時間を必要とします。今日は時間ありませんので、今回は、この表のような児童生徒数の見込みになるということをお知らせしたということとして、今後どのような方法で市民へ知らしめていくのか、あるいは、どのような形で持っていくのかということをお知らせしたことを教育委員会の各会議、もしくは、総合教育会議の中で進めていきたいと思っています。7年後、8年後ではなく、その時にあわてないような形で持っていこうと思っていますのでよろしくお願いします。

では、議案第2号については、これで終わりにします。

## ○報告事項

平成29年度教育予算見込みについて

市長：次に、報告事項「平成29年度教育予算見込み」について、事務局から説明をお願いいたします。

学校教育課長：資料に基づき説明。

生涯学習スポーツ課長：資料に基づき説明。

学校給食共同調理場長：資料に基づき説明。

こども課長：資料に基づき説明。

市長：ありがとうございました。各所管が平成29年度予算として要求している事業についての説明がありました。このことについての質問、意見がございましたらよろしくお願いします。いかがでしょうか。

鬼頭委員：校長予算要望会、教職員懇談会の中の希望で学校の土の入れ替えを盛んに言ってみえました。今年は特に雨により運動会とかが順延々になってきちんと準備はされているのですが、雨に悩まされた年であったと痛感しました。ただ、「運動会が出来た」、「出来なかった」ということだけではなく、雨で順延したことで親御さんが見に来られなくなったり、地域で参加予定していた方が参加出来なかったりという残念なことがあると、順調に事が運ばないことで、特に子どもたちの達成感がしぼんでしまうのかなと思ったりします。いろんなことが出来ることで、地域のコミュニケーションが取れるとか、親御さんとの一体感を得られるとか、様々なメリットとなることがあるのになと感じた運動会だったなと思いました。

それから、2番の学校生活支援員配置事業についてですが、先生たちのアンケートの中で支援員さんがいて助かるというという多くの言葉が付いています。その中で時間数の増、先生の増を望んでいて、打合せをしっかり取れるよ



うにしたいという多くの要望がありますので、この時間を増やすことで先生方が時間を上手に使って支援員の先生たちと打合せがきちんと出来て、子どもたちに反映されるといいなと思います。

市長：グラウンド整備については要求しましたか。

学校教育課長：三和小学校ですが校長予算要望で優先順位2位でありました。抜本的に解消しようとする、相当な金額がかかってしまいます。今回はできませんでした。

市長：三和小学校以外にも要望している学校はありますか。

学校教育課長：鬼崎南小学校、小鈴谷小学校です。

市長：学校生活支援員は時間数が増になりますので、良くなると思います。

他にどうでしょうか。

渡辺(慶)委員：生涯学習スポーツ課の4番文化財修繕費ですが、大善院のイブキの看板が市指定から県指定へ変更されたということで、こういうのも市が工事するのですか。

生涯学習スポーツ課長：市の指定の時点で看板は既に設置してあります。看板はイブキの後ろ側にあります。今回後ろから前に設置するというので、県はやってくれないということでした。

市長：他はどうでしょうか。

渡邊(十)委員：学校訪問の際に思うのですが、どの学校も直さなければならないところが沢山あり、学校の中に危険箇所があり、立ち入り禁止箇所があるという状態です。命を守るという教育の一番大前提であり、子どもの命を守るための優先的な工事や修繕をしていかなければいけない中で、少し気になったのが放送設備です。本当に悪く途中で音が聞こえなくなるなど、緊急の時、避難しなくてはいけない時にこんな放送設備で子どもたちの命が守れるのかなと思いました。その学校の中では、優先順位を上につけたいけれど付けられない。差し迫って大変な箇所があるから、それが優先順位の上になると思うのですが、あまり優先順位にこだわらないで、子どもの命を大前提に考えて、絶対これは必要、早急に直したほうが良いところは、優先的に直していただきたいなと思います。いつ地震が起こってもおかしくない状況であるのに、学校の放送設備が壊れているということはどういうことなのかなと思いました。学校訪問に行った際も確か鳴らなかった気がします。

学校教育課長：大野小学校は修繕いたしました。お話のとおり、児童生徒の命を守るということが最優先でございますので、放送設備は学校の優先順位とは別の次元で早急に対処したいと思っています。そういうところで配分していくと何千万とかかる土入れ替えの部分は後回しになってしまうことになります。

市長：他はよろしいでしょうか。貴重な意見ありがとうございました。

平成29年度予算につきましては、現在査定中ですが、予算編成につきましては、十分審議させていただき、議会で議決されました後、事務局より詳しい内容につきましてご説明申し上げますので、よろしく願いいたします。

報告事項については以上で終わらせていただきます。ありがとうございました。

次にその他について委員の皆様何かございますか。

市長：それでは、以上で平成28年度第2回常滑市総合教育会議の議事をすべて終了させていただきます。貴重なご意見ありがとうございました。

教育部長：ありがとうございました。それでは、以上で第2回の総合教育会議を閉会といたします。慎重なご協議ありがとうございました。

## 6 閉会